

1 単元名 「短歌を楽しむ」(東京書籍「新しい国語2」)

2 日時 令和3年5月25日(火)

3 単元の指導目標

【知識及び技能】

- ・短歌を鑑賞・創作することを通して、情景や心情を表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・短歌に詠まれた情景や心情を想像して内容を解釈するとともに表現技法の効果について考え、その内容を鑑賞文にして伝えることができる。
- ・自然や体験を題材に、表現を練り上げて短歌を創作することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・学習したことを踏まえて、鑑賞文に書き表そうとしたり、短歌を創作したり、自分の考えを伝えることができるように粘り強く取り組むことができる。

4 単元の評価規準

【知識・技能】

- ・短歌を鑑賞・創作することを通して、情景や心情を表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。

【思考・判断・表現】

- ・短歌に詠み込まれた情景や心情を想像し解釈した内容や、表現技法の効果について考えたことを鑑賞文にして表現している。
- ・自然や体験を題材に、表現を練り上げて短歌を創作している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・鑑賞文や短歌創作において自分の考えを伝えることができるように粘り強く取り組もうとしている。

5 指導にあたって(課題及び指導方法の手立てと工夫)

【生徒の課題について】

- ・短歌から読み取ったことや想像したこと、表現の工夫として感じ取ったことなどについて、どの語句に着目して考えたのか根拠を明確にして書いたり、自分が考えたことを整理し、構成を意識して書いたりすることに課題がある。

【自分の考えをもつため】

- ・学習した「短歌五首」の中から、一首を選ぶことで一作品と向き合う構えをつくる。
- ・想像したことだけでなく自分が抱いた疑問点を読む視点に据え、その疑問点をどのように解決、解釈していったかを考えさせる。

【a～iの9つの観点】

観点(f・g・h)

- ・終末に鑑賞文を書く活動を行うことで、読み取ったこと、疑問に思ったこととその解釈について短歌の語句や表現技法を根拠にしながら考え、自分の読みを深めることができるようにする。
- ・短歌を創作することを通して、自分の生活と結び付けて豊かに想像し、言葉を吟味・選択しながら自分の思いを表現する力を育む。

6 指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習目標を確認し学習の流れをつかむ。 ○短歌の形式、句切れや表現技法について確認する。 ○全文を通読して短歌の内容を捉えて、音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を提示し、単元の見通しを持たせる。 ・短歌の形式、技法について本文やワークシートをもとに確認する。 ・鑑賞文を参考にしながら、三首の短歌の内容を捉える。また、三首の短歌を繰り返し音読し、リズムを味わう。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌の形式、句切れや表現技法について理解している。(テスト) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌に詠まれた情景や心情を想像しながら、内容を解釈している。(ワークシート)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「短歌五首」を読みそれぞれの短歌に詠まれている情景や心情を想像する。また、それぞれの短歌にどんな表現の特徴や工夫があるかを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの短歌にはどのような情景や心情が描かれているかを想像させワークシートに書き込ませる。またそれらを効果的に伝えるために、どのような表現技法が用いられたり、表現の工夫がなされたりしているかを捉えさせる。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌に詠まれた情景や心情を想像しながら、内容を解釈している。(ワークシート) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌を比較するなどして表現の効果について考えている。(ワークシート)
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○「鑑賞文を書く」という学習課題を確認する。 ○一首選び、ワークシートに書く内容を書きだしていく。 ○書くときの条件や注意点、引用の仕方を確認し、鑑賞文を原稿用紙に書く。 ○推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一首選び、解釈した内容を踏まえ原稿用紙1枚に鑑賞文を書くという課題を確認する。 ・観点を示したワークシートに考えを記入させることで、考えを可視化し構成を意識してまとめやすくする。 ・読み手を意識して、わかりやすく書くための注意点を確認し、考えを文章化させる。短歌の言葉や技法を自分の考えの根拠にしていくことを助言する。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像したことや表現技法と効果、疑問点をどのように解釈したかについて短歌の言葉を根拠にして自分の考えを書くことができている。(ワークシート・原稿用紙) <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞内容や考えを進んでまとめようとしている。(観察)
4	<ul style="list-style-type: none"> ○班で鑑賞文を読み合い、相互評価を行う。 ○自然や体験を題材に、表現を練り上げて短歌を創作する。 ○推敲し、短歌を仕上げ提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞文を読み合い、良い点やアドバイスなど、一言感想を伝え合う。 ・「若山牧水青春短歌大賞」に投稿することを伝え、読み手に伝わる表現になるように言葉を吟味したり、それぞれの技法が持つ効果を意識して用いたりすることを確認する。 ・マッピングの技法を使って、発想を広げていく方法もあることを助言する。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散文的な短歌ではなく、表現を練り上げて短歌を創作できている。(作品) <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを進んで短歌にしようとしている。(観察・ワークシート)

7 本時の目標

短歌に詠まれた情景や心情を想像したり解釈したりしたことや、短歌の中で注目した語句や表現技法の効果について考えたことを鑑賞文にして伝えることができる。

8 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 一首選び、解釈した内容を踏まえ原稿用紙1枚に鑑賞文を書くという課題を確認する。 	
<p>短歌から想像したことや表現技法の効果について考えたことを鑑賞文にまとめよう。</p>		
2 一首選び、ワークシートに書く内容を書きだしていく。	<ul style="list-style-type: none"> 観点を示したワークシートに考えを記入させることで、考えを可視化し、構成を意識してまとめやすくする。 	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像したことや表現技法とその効果、疑問点をどのように解釈したかについて、短歌の言葉を根拠にして自分の考えを書くことができる。(ワークシート・原稿用紙)
3 書くときの条件や注意点、引用の仕方を確認し、鑑賞文を原稿用紙に書く。	<ul style="list-style-type: none"> 書くときの条件として、①想像したこと、②疑問に思ったこととそれについての自分の考え、③その短歌の良さやまとめの構成で、原稿用紙1枚に書くことを提示する。 短歌の表現を具体的に引用するときの表記の仕方について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ①「 」を使い、自分の文と区別する。 ②引用したい短歌の言葉は、一字一句そのままを「 」の中を書く。 読み手を意識して、わかりやすく書くための注意点についてプリントで確認し、考えを文章化させる。 短歌の言葉や技法を自分の考えの根拠にしていくことを助言する。 	<p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞内容や考えを進んでまとめようとしている。(観察) 本時の学習内容を振り返り、わかったことや今後の課題、次に活かしたいことについて考え、「振り返りシート」に記入している。「振り返りシート」
4 推敲する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が伝えたい内容になっているか表現の仕方は適切か、推敲させる。 	
5 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> わかったことや今後の課題、次に生かしたいことについて振り返らせる。 	

白鳥は空しからず空の青
海の色もはなまき
若山 秋水

二年(一)番

この短歌から「空の青」の印象を強く感じた。作者が「空の青」を「海の色もはなまき」と表現している。これは、空の青と海の色が同じくらい美しいことを示している。また、「空の青」を「海の色もはなまき」と表現しているのは、空の青と海の色が同じくらい美しいことを示している。また、「空の青」を「海の色もはなまき」と表現しているのは、空の青と海の色が同じくらい美しいことを示している。

色(いろ)の対比は、青と空の青の対比。作者が「空の青」を「海の色もはなまき」と表現しているのは、空の青と海の色が同じくらい美しいことを示している。また、「空の青」を「海の色もはなまき」と表現しているのは、空の青と海の色が同じくらい美しいことを示している。

作者が「空の青」を「海の色もはなまき」と表現しているのは、空の青と海の色が同じくらい美しいことを示している。また、「空の青」を「海の色もはなまき」と表現しているのは、空の青と海の色が同じくらい美しいことを示している。

9 成果と課題

(1) 成果

- ・単元のはじめに鑑賞文作成と短歌創作の予告をし、学習の見通しを持たせてから展開したことで、目的を持って学習に取り組めた。
- ・ワークシートを用いて短歌の基礎知識、各作品の概要について全体で確認したことで、限られた音数の中で表現された作者の思いや工夫について、比較を交えながら捉えることができた。
- ・鑑賞文の作成を通して、作品からイメージを受け取るだけでなく、自分の解釈を加え、どのように理解したかを自分のことばで表現することができた。このねらいを達成するための手立てとして、ワークシート（本ページ右）を工夫した。書くことが苦手な生徒も取り組みやすくするために、「何を、どのような構成で書くのか」を細分化し、スモールステップで取り組めるように作成した。それによって、短い言葉からでも、どの観点からでも書き始められ、可視化ができ、助言しやすくなった。さらに、ワークシートの内容に「疑問に思ったことと考えたこと」を加えたことで、どのように解釈し直したか、どの語句やどの表現技法を根拠に解決していったのかという、自分の読みの中で捉え直したことが表現できていた。完成した鑑賞文を読み合い、一言感想で良い点やアドバイスを伝え合ったことで、同じ短歌を読んでも、人それぞれ違うことをイメージすることのおもしろさや自分では気づかなかった解釈に出会った生徒もいた。
- ・短歌を創作することを通して、自分の生活と結び付けて豊かに想像し、言葉を吟味・選択しながら自分の思いを表現することができた。技法の効果を理解して意図的に作品に用いることもできたという感想が「振り返りシート」で多く見られた。鑑賞文で技法に注目して読みを深めたことで、表現技法が持つ効果を自分の短歌創作や表現に生かそうとしたことが伺える。創作した短歌は、クラスごとにプリント1枚にまとめて審査用紙として配布し、投票理由を添えて投票・表彰したり、「若山牧水青春短歌大賞」に投稿したりすることで、自己表現にとどめず、他の学習者や社会とのつながりを意識して取り組むことができた。

(2) 課題

- ・書く内容を具体的にワークシートに示したことで、大多数の生徒が前時までに学習した内容を踏まえて鑑賞文を書き上げることができた。しかし、原稿用紙1枚分が書けない生徒や印象や感想しか書くことができない生徒もいた。ワークシートから原稿用紙に表現する過程で付け加えられる生徒ばかりではない。助言・添削、ワークシートの工夫といった追加の手立てが必要だと感じた。
- ・系統性を意識して、学習活動を設定したい。各学年で詩歌の学習の機会がある。既習事項を復習・定着させることにとどめず、それらを活用し、レベルアップを実感できるような活動を計画したい。本単元では、表現技法の効果を自分の考えの根拠とすることができた。来年度の俳句や和歌の学習で、積み上げができればと思う。